

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会

研修会記録

第1号

令和5年 7月 5日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長

【提案日時】

6月 5日 (水)

提案 小田島 学先生 (別所小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 鷹野 誠先生 (本牧南小)

記録 金井 伸一先生 (西富岡小)

○第一時の三つの時代を比べてみることで、時代の流れを俯瞰してみることができていた。大きく国がまとまってきたことをつかみ、なぜそうなっていったのか事実を考えていこうとする疑問から学習問題が成立していた。

○これまでは、人物から時代をみていくことが多かったが（聖徳太子⇒聖徳太子の思いは受け継がれたのか）、どうしても事実と反してしまったり、単元全体とのつながりが途中で切れてしまったりすることがあった。時代からみていくことで、単元を見通す学習問題がより学習にあうものになるように、子どもたちとつくりだすことができた。

○年表の情報量を減らすことでより子どもが追究しやすい学習計画をたてることができていた。必要な支援となっていた。

視点①

- 自分の学びを自己決定する場面では、学習計画を全体で立てたあとに、ロイロノートで作成した「**学びのカルテ**」により、子どもの変容をみとったり、自分の成長や学びをふり返ったりする姿が生まれた。単元の中で継続して使用していくことで、今後もその力がより伸びていくことを期待していることも参考になった。
- 単元のはじめの提案がとても勉強になった。
- どんな学習を進めようとしているのか**学びのカルテ**で明確になることで、子どもたちもより理解を深めながら進めることができた。
- 学び方を自己決定していく中で、一人ひとりの個人差がより顕著になることがある。今回は支援カードを使用しながら、その差をなくそうとされていた。今後、どのような手立てをうつと、子どもの資質能力として育むことができるか、学び方を自分で選択して自ら学び続けるような子どもの姿につながるのか、継続して考えていきたい。

- ・事前に調べ方と考え方などの支援をしていくことで、個人差があっても、その子なりの学習計画を立てていくことができるようになるかもしれない。単元をこえて、継続して能力の育ちをみていくことが重要。

○ご参会いただいた校長先生より

星川小学校 五十嵐校長先生

単元の終わりに疑問がまだ本当はあったのではないか。子どもたちの主体性ということでは、子どもたちの疑問を解決しながら進める団子でよいのではないかとも思う。

社会科は授業と授業のあいまをどう使って指導していくかが、これまでも大切にしてきた。社会科を核に学級経営や児童理解を深めていくことが重要。その意味では、本当に勝負なのは、授業と授業の間を大切にすることである。今の生活と社会のつながりを感じるものにしていくことも必要だ。

○世話人校長先生より

大曾根小学校 宮本校長先生

主体的に学びをすすめるための学習計画。今回の小田島先生のご提案は、一つのモデルプランを提示していただいたと思う。単元を見通す学習問題をどうつくるのか

天皇中心の国づくりという点では、本気の学習問題を解決したあとの子どもの記録があるが、本当にその理解でよかったのか。

その単元でとらえさせたい社会的事象の意味をしっかりと理解して本気の学習問題を練り上げていくことが重要。

文責 坂本 実 (川和東小学校)